

## I. 運営委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した。

1. [H27-004: 報告] J-STAGE での植生学会誌論文原稿の公開に際し、PDF 版の原稿を作成・購入する必要があったので、一時的に全額を学会負担で購入することとした。また、学術著作権協会へ著作物の電子的複製権の管理を委託することとした（報告日 2015 年 7 月 8 日）。
2. [H27-005: 意見聴取] 企画委員会より提案のあった植生学会学術発表助成制度の新設案について意見聴取を行った（聴取期間 8 月 23 日から 9 月 1 日）。
3. [H27-006: 採決] 植生学会学術発表助成制度について審議し、今年度からの実施が承認された（審議期間 9 月 14 日から 9 月 23 日、別掲 1）。
4. [H27-007: 採決] 平成 27 年度植生学会各賞の候補者の推薦について審議し、受賞者が決定した（審議期間 9 月 14 日から 9 月 23 日）。
5. [H27-008: 採決] 植生学会誌投稿規定・執筆要領の改定について審議し、改定が承認された（審議期間 11 月 3 日から 11 月 12 日）。改定内容は以下のとおり。

新) 植生学会誌投稿規程

旧) 植生学会誌投稿規定

新) 付則 1. この規程は 2015 年 12 月 1 日より適用する（2015 年 11 月 30 日改定）。

旧) 付則 1. この規定は 2015 年 6 月 1 日より適用する（2015 年 5 月 31 日改定）。

新) 付則 2. この規程の改定は、〈省略〉…。

旧) 付則 2. この規定の改定は、〈省略〉…。

### 植生学会誌執筆要領

新) 20. 〈省略〉。これを超える別刷を希望する場合は〈省略〉…。別刷の必要部数（無料分を含む 50 部単位）を投稿原稿送付状に明記すること。

旧) 20. 〈省略〉。これを超える別刷および PDF 版の別刷を希望する場合は〈省略〉…。別刷の必要部数（無料分を含む 50 部単位）と PDF 版別刷の要・不要を投稿原稿送付状に明記すること。

新) 付則 1. この要領は 2015 年 12 月 1 日以降に投稿された原稿に適用する（2015 年 11 月 30 日改定）。

旧) 付則 1. この要領は 2015 年 6 月 1 日以降に投稿された原稿に適用する（2015 年 5 月 31 日改定）。

2015 年 10 月 10 日に高知大学朝倉キャンパスにおいて定例の運営委員会を開催した。審議事項は以下の通り。

1. 2014 年度の収支決算（案）について審議した。
2. 2015 年度の予算案（案）について審議した。
3. 第 21 回大会（2016 年度）の開催地について審議した。
4. 表彰委員会より推薦された今年度の植生学会論文賞について審議し、受賞論文が決定した。
5. 学会誌掲載論文の J-STAGE での公開にかかる PDF の買

い取りについて審議し、32 巻 1 号以降のすべての掲載論文について学会負担で PDF を作成することとした。

6. 学会誌掲載論文の J-STAGE へのアップロード作業について審議し、今後登録作業を笹氣出版印刷に委託することとした。
7. 講演要旨集の国立国会図書館への納本について審議した。
8. 大会プログラム・講演要旨集の HP への掲載について審議した。
9. 植生学会運営委員会規則の制定および選挙施行細則の改定について審議した。
10. 植生学に関するトレーニングスクールの実施内容について審議し、後は実施内容を多様化することとした。

## II. 編集委員会報告

2015 年 10 月 10 日に高知大学朝倉キャンパスにおいて定例の編集委員会を開催した。審議事項は以下の通り。

1. J-STAGE へのアップロード作業を笹氣出版印刷に依頼することを決定し、運営委員会に諮ることとなった。
2. 植生学会誌冊子への会則掲載の是非について審議した。
3. 植生学会論文賞の細則変更について審議した。
4. 編集委員会の各種規程の見直しについて審議した。

## III. 企画委員会報告

2015 年 10 月 10 日に高知大学朝倉キャンパスにおいて定例の企画委員会を開催した。審議事項は以下の通り。

1. 将来計画委員会の答申のうち企画委員会の担当事項について審議を行った。一般向け書籍の刊行について、引き続きワーキンググループで検討することとなった。若手人材育成のための取り組みとして、若手の国際学会参加への支援制度を新設し、今年度から募集することとなった。トレーニングスクールについて、過去 2 年にわたり試行的に開催したが、今年度は開催場所や担当者の調整等の問題から実施できなかった。今後の在り方について審議を継続することとなった。
2. 東日本大震災復興支援として、沿岸域での復興工事に対する自然環境への配慮に関する要望書の提出、フィールドワークショップへの協賛団体としての支援、日本生態学会生態系管理委員会主催の自然フォーラムを協賛するなどの活動を行った。後は、福島県での活動を強化したい。

## IV. 表彰委員会報告

2015 年 10 月 10 日に高知大学朝倉キャンパスにおいて定例の表彰委員会を開催した。審議事項は以下の通り。

1. 平成 27 年度の学会賞 1 名、奨励賞 1 名、特別賞 2 名、論文賞 1 件の受賞について報告された。
2. 発表賞細則の改定について審議し、「応募要項」に関する文章を加えることが承認された。
3. 推薦要領の改定について審議し、改定案が承認された。
4. 第 20 回大会の発表賞の審査方法について確認し、次回大会の審査担当者を決定した。
5. 功労賞、特別賞を中心に各賞の今後の在り方について議論した。審査に際して行われた議論等については、報告

## 別掲 1. 植生学会学術発表助成制度

**目的:** 植生学会は、研究者の育成と研究の活性化をはかるため、学生会員の経済的支援をおこなう。本制度は、学生会員が海外の国際学会等で植生学に関する研究発表をおこなった際、渡航経費等の一部を補助することを目的とする。

**応募資格:** 応募時点で、植生学会に学生会員として1年以上在籍し、大学または大学院（修士課程、博士課程）のいずれかに所属する学生で、過去にこの助成を受けたことのない者。なお、原則として研究生（学会発表後に有資格者となる場合を除く）、社会人学生、ポスドク等は対象としない。

**助成金額:** 1件あたり5万円

**募集件数:** 各年度につき若干件

**募集期間:** 毎年2月1日から2月末日まで（必着）

**対象学会:** 募集開始日（2月1日）からさかのぼって1年以内に海外で開催された国際学会・国際会議等

**応募条件:** ① 該当する学会の種類: 国際学会（国際植生学会、国際生態学会、国際植物学会など）、外国の学会（アメリカ生態学会、イギリス生態学会など）の大会、またはこれらに準じた学会の大会などを指す。なお、国際プロジェクトの研究発表会、報告会、研究集会、ワークショップ、および国際学会の日本国内開催の大会は本助成の対象には該当しない。

② 渡航経費等とそのうちの自己資金割合: 渡航経費等の総額が10万円以上で、その50%以上を自己資金で支出している場合が対象となる。

**提出書類:** ① 植生学会国際学術発表助成制度申請書（様式1）

② 経費内訳書（様式2）（出張旅費や他の助成金による補助があった場合は必ずその額も明記すること。）

③ 発表を行った国際学会のプログラム等（学会名、開催地、開催時期、当該発表が記載されていること；コピー可）

④ アブストラクトまたはプロシーディングのコピー（申請者発表部分のみ）

⑤ ボーディングパス（搭乗券）の半券または航空券の明細（搭乗者名と行程一覧が記載されたe-チケット、あるいは航空券綴りの最後のページ）など旅程が分かる書類

⑥ 費用内訳書に記載した支出項目に係る証拠書類（航空券の領収証、学会参加費の領収証、ホテル宿泊費の領収証など。いずれもコピー可）

⑦ 出張旅費や他の助成金による補助金額が分かる書類（該当する場合のみ、コピー可）

**審査方法:** 別途定める「海外の国際学会等で研究発表をおこなう学生会員に対する渡航経費等の補助審査要綱」により行います。

**付 則:** この助成制度は2015年3月1日以降に開催された国際学会への参加者から適用する。

**注意 1):** 応募書類一式は全てPDF化し、下記の学会事務局宛に電子メールで送付してください。なお、応募書類等は返却いたしません。

**注意 2):** 本助成制度を利用して国際学会に参加しようとする者は、その学会が助成対象となるかどうかの確認を前もっておこなってください。問い合わせ先は下記の植生学会事務局です。

**注意 3):** 本助成を受けて国際学会で発表した者は、植生情報誌に、国際学会での発表内容と学会の様子などについて1000字程度の報告原稿を提出することを義務づけます。

**担当者住所** 〒108-0023 東京都港区芝浦2丁目14番13号 MCKビル2階 笹氣出版印刷株式会社 東京営業所内  
植生学会事務局

**担当者氏名** 庶務幹事 比嘉基紀 (shokusei@sasappa.co.jp)

書として記録し、引継ぎ資料の一つとすることとなった。

## V. 大会企画委員会報告

2015年10月10日に高知大学朝倉キャンパスにおいて定例の大会企画委員会を開催した。審議に先立ち、運営委員会メール審議[H26-012]で承認された植生学会大会運営委員会規則(別掲2)について報告が行われた。

審議事項は以下の通り。

1. 次年度の体制について審議した。
2. 大会プログラムの学会HPでの公開について審議した。
3. 大会講演要旨集のHPでの公開について審議した。

## VI. 学会事務局報告

1. 植生学会誌掲載論文が第31巻1号よりJ-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/vegsci/-char/ja/>) で公開されることとなった。
2. 尾瀬沼ビジターセンター（福島県南会津郡檜枝岐村燧ヶ岳1）において、植生学会企画委員会（2011）ニホンジカによる日本の植生への影響のシカ影響度マップが展示された（期間：2015年9月12日～10月31日）。

## VII. 2015年度総会報告

2015年10月11日に高知大学朝倉キャンパスにおいて2015年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

## 別掲2. 植生学会大会運営規則

2015年3月8日 制定

(目的)

第1条 本規則は、植生学会会員の研究成果の発表および相互交流の場を提供する学術大会の企画・運営を円滑に実施することを目的として定める。

(学術大会)

第2条 年次学術大会（以下、大会とする）は、会員による研究成果の発表その他をもって開催する。

- 2 大会期間中に総会及び運営委員会、各種専門委員会を開催する。
- 3 公開シンポジウム、学会賞表彰、受賞者講演会等を実施することができる。

(大会開催機関)

第3条 学会会長は過去の実績に基づき次年度の大会開催機関を決定し、会員より大会会長を指名する。学会会長は決定事項を前年度の総会で報告する。

(大会企画委員会)

第4条 大会の企画を円滑に実施するために、大会企画委員会をおく。

- 2 大会企画委員会は以下の委員をもって構成する。
  - (1) 学会会長、幹事長、企画委員、表彰委員、庶務幹事、会計幹事、学会事務担当、学会会長が必要と認める会員
  - (2) 当該年度大会会長および次年度大会会長
- 3 委員の任期は3年とする。ただし、前項の(2)に係る委員の任期は1年6か月とする。
- 4 大会企画委員会の事務局を笹氣出版印刷株式会社東京営業所内（東京都港区芝浦2丁目14番13号MCKビル2階）におく。
- 5 委員会は以下の事項を実施する。
  - (1) 大会全体の事業計画の策定
  - (2) 大会ホームページの作成
  - (3) 発表プログラムの作成
  - (4) 講演要旨集の発行
  - (5) 大会参加費等の徴収

(大会実行委員会)

第5条 当該年度の大会会長は、大会の準備および運営のために、大会実行委員会を組織することができる。大会実行委員会は、年度ごとにそれぞれ存在することから、その名称の前に回数を附して区分する。大会実行委員会の内規は別に定める。

- 2 委員会は以下の事項を実施することができる。
  - (1) 開催日時の決定
  - (2) 会場の確保
  - (3) 大会懇親会の開催
  - (4) エクスカーションの開催

(大会経理)

第6条 大会等の経理は、大会企画委員会事務局がこれを担当する。

(規則の改定)

第7条 本規則の変更は植生学会運営委員会の決議による。

附則

1. 本規則は平成27年3月8日から施行する。
2. 大会企画委員会設立年月日 平成27年2月1日

## A. 報告事項

1. 学会事務局報告  
2015年10月1日現在の会員数（正会員553名、団体会員10団体、賛助会員1団体）が報告された。
2. 各種委員会報告  
上記I～Vの運営委員会、各種委員会の審議事項が報告された。

3. 運営委員会規則（別掲5）の制定について承認した。
4. 選挙施行細則（別掲6）の一部改定について了承した。
5. 次年度以降の大会プログラムと講演要旨の学会HPでの公開を承認した。

## C. その他

第21回大会（大阪市）の運営代表者として前迫ゆり氏より、多数の参加が要請された。

## B. 承認事項

1. 2014年度収支決算（別掲3）について
2. 2015年度予算案（別掲4）について

## 別掲3. 植生学会 2014 年度収支決算

(単位: 円)

収入の部	予算	決算	差異	備考
前期の繰り越し	3,873,520	3,873,520	0	
会費	3,354,000	3,253,860	-100,140	
バックナンバー売り上げ	20,000	18,100	-1,900	
雑収入	500,000	1,212,806	712,806	
		(48,648)		著作権使用料など
		(814,158)		別刷・超過ページなど
		(350,000)		第19回大会補助費の返金
利息	500	146	-354	
計	7,748,020	8,358,432	610,412	
支出の部	予算	決算	差異	備考
植生学会誌刊行費 900,000 円×2回	1,800,000	2,328,696*	-528,696	*第31巻1号・2号
植生情報刊行費 650,000 円×1回	650,000	651,000*	-1,000	*第18号
学会事務局経費	930,000	982,459	-52,459	
編集事務経費	140,000	31,410	108,590	
企画委員会経費	400,000	404,403*	-4,403	*内訳: トレーニングスクール関連経費 63,315 円, 群落談話会経費 52,728 円, 震災関連印刷費 288,360 円
表彰委員会経費	50,000	51,372	-1,372	
大会補助費	350,000	350,000*	0	*第19回大会(後日全額返金)
予備費	3,428,020	202,608	3,225,412	別刷・超過ページなど
計	7,748,020	5,001,948	2,746,072	
収支差額(繰り越し)	0	3,356,484	-3,356,484	

## 別掲4. 植生学会 2015 年度収支予算

(単位: 円)

収入の部	2015 年度	2014 年度	差異	備考
前期繰り越し	3,356,484	3,873,520	-517,036	
会費	3,296,000*	3,354,000	-58,000	*一般 487, 学生 66, 団体 10, 賛助 1 (10月1日現在)
バックナンバー売り上げ	20,000	20,000	0	
雑収入	500,000	500,000	0	
利息	500	500	0	
計	7,172,984	7,748,020	-575,036	
支出の部	2015 年度	2014 年度	差異	備考
植生学会誌刊行費 1,000,000 円×2回	2,000,000	1,800,000	200,000	*第32巻1号・2号
植生情報刊行費 650,000 円×1回	650,000	650,000	0	*第19号
学会事務局経費	1,100,000	930,000	170,000	
編集事務経費	40,000	140,000	-100,000	
企画委員会経費	400,000	400,000	0	
表彰委員会経費	50,000	50,000	0	
大会補助費	350,000	350,000	0	*第20回大会
予備費	2,582,984	3,428,020	-845,036	
計	7,172,984	7,748,020	-575,036	

## 別掲 5. 植生学会運営委員会規則

2015年10月11日 制定

(趣旨)

第1条 この規則は、植生学会会則第13条の規定に基づき、植生学会運営委員会に関し必要な事項を定める。

(構成)

第2条 運営委員会は、学会長と運営委員をもって組織する。

(委員)

第3条 運営委員は、全国から正会員の互選によって選ばれた全国選出委員および北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄の各地区居住の正会員の互選によって選ばれた地区選出委員で構成される。

2 運営委員の定員は、全国選出委員が5名、地区選出委員が8名とする。ただし、地区選出委員は当該地区居住の正会員数が100名を超えるごとに1名増員する。

3 委員の任期は3年とし、連続3期の再任を妨げる。

4 地区選出運営委員が他地区に移動したときは運営委員の任を解く。

5 運営委員に欠員が生じた場合は、次点者を順次繰り上げて当選者とし、その任期は前任者の残任期間とする。

6 運営委員の選出に関するその他の事項は別に定める。

(運営委員会の開催)

第4条 運営委員会に議長を置き、植生学会会長をもって充てる。

2 議長は運営委員会を主催する。

3 議長が欠けたときは、あらかじめ議長の指名するものがこれを代行する。

4 運営委員会は、原則として年1回開催するものとする。ただし、必要に応じて電磁的方法等による臨時の委員会を開催することができる。

5 運営委員が議題と理由を示して運営委員会の開催をもとめた場合は、議長はこれを開催しなければならない。

6 運営委員会は、運営委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。ただし、当該事項につき事前に意見を提示したものの、又は他の議長、他の運営委員を代理として表決を委任したものは出席者とみなす。

7 長期出張、休職および病気休暇等の事由により出席が困難な者は、運営委員会の開催要件には含めない。

8 議長が必要と認めるときは、構成員以外の者を出席させ、説明または意見を聞くことができる。

(審議事項及び方法)

第5条 運営委員会は、本会会則第4条に規定する事業目的のほか次の各号に掲げる事項を審議する。

- 1) 本会の基本方針の策定
- 2) その他本会の運営に関する事項

2 議長および運営委員は、議題を提出することができる。

第6条 運営委員会の議決が必要ときは、運営委員の過半数の賛同を得なければならない。ただし、可否同数の場合は、議長がこれを決するものとする。

第7条 運営委員会は議事要録（配布資料を含む）を作成し保管するものとする。

2 議長および幹事長は議事要録の確認を行う。

3 議事要録は植生学会誌の学会記事にて会員に公表する。

(専門委員会)

第8条 会の運営を円滑に実施するために、専門委員会を設置する

- 1) 編集委員会
- 2) 企画委員会
- 3) 表彰委員会
- 4) 大会企画委員会

2 議長が必要と認めるときは、運営委員会の承認を得た後に臨時専門委員会を設置することができる。

3 専門委員会委員長は、運営委員の中から議長が選任し、運営委員会に諮って委嘱する。

4 専門委員会の規定は別に定める。

(庶務)

第9条 運営委員会の庶務は、学会事務局において処理する。

(守秘義務)

第10条 運営委員会構成員は、業務上知り得た情報等を他に漏らしてはならない。

(雑則)

第11条 本規則の変更は総会の決議による。

第12条 この規則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は運営委員会が別に定める。

附則

- 1 本規則は 2015 年 10 月 11 日から施行する。
- 2 植生学会運営委員会設立年月日 1996 年 4 月 1 日

※注釈. 下線部第 3 条 1 から 3 は学会会則より, 同条 4・5 は選挙施行細則より転載した. その他条文は新規に規定した.

別掲 6. 植生学会会長・運営委員選挙施行細則の一部を改定する新旧対照表

新	旧
植生学会会長・運営委員選挙施行細則 2001 年 10 月 6 日改正 2015 年 10 月 10 日改正	植生学会会長・運営委員選挙施行細則 2001 年 10 月 6 日改正
(趣旨) 第 1 条 本細則は、植生学会会則第 11 条および運営委員会規則第 3 条に定められた、会長および運営委員の選出に関する手続きを定めたものである。	(新規) 第 1 条 本細則は植生学会会則第 10 条の 1 および 2 に定められた会長および運営委員の選出に関する手続きを定めたものである。
(選挙管理委員会の構成) 第 2 条 会長および運営委員の選挙事務を処理するため、会長・運営委員選挙管理委員会（以下、選挙管理委員会という）を置く。 2 選挙管理委員会委員長は正会員の中から会長が選任する。 3 委員（若干名）は委員長が指名する。	(新規) 第 2 条 会長および運営委員の選挙事務を処理するため、会長・運営委員選挙管理委員会（以下、選挙管理委員会という）を置く。 2) 委員長は学会幹事長をもってあて、委員（若干名）は委員長が指名する。
(投票実施方法) 第 3 条 選挙は正会員の互選（無記名投票）による。 2 選挙期日および候補者名簿は、役員の任期が満了する年度の総会の 3 ヶ月前までに公示しなければならない。 3 投票は所定の投票用紙を用い、選挙管理委員会が定めた期日までに到着するように投票しなければならない。 4 会長選挙用紙には候補者 1 名の氏名を記入する。 5 運営委員選挙用紙には、全国選出運営委員候補者 5 名の氏名と、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の地区ごとに定められた人数の地区選出運営委員候補者の氏名を記入する。ただし、地区選出運営委員欄に記入した候補者名と全国選出運営委員欄に記入した候補者名は重複しても構わない。 6 地区ごとに選出される運営委員の人数は、投票締め切り日の 2 ヶ月前の時点における各地区の正会員数をもとに運営委員会規則にしたがって決定する。 7 会長候補者、運営委員候補者および選挙人は投票締め切り日の 2 ヶ月前の時点での名簿住所にもとづき、地区の所属が決定する。	(新規) 第 3 条 選挙は正会員の互選（無記名投票）による。 2) 投票は所定の投票用紙を用い、選挙管理委員会が定めた期日までに到着するように投票しなければならない。 3) 会長選挙用紙には 1 名の氏名を、運営委員選挙用紙には、全国選出運営委員については 5 名の氏名を、また地区選出運営委員については地区（会員名簿住所による）ごとに定められた人数の氏名を記入する。ただし、地区選出運営委員欄に記入した候補者名と全国選出運営委員欄に記入した候補者名は重複しても構わない。 4) 北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の各地区ごとに選出される運営委員の人数は、投票締め切り日の 2 ヶ月前の時点における各地区の正会員数をもとに会則にしたがって決定する。 5) 会長候補者、運営委員候補者および選挙人は投票締め切り日の 2 ヶ月前の時点での名簿住所にもとづき、地区の所属が決定する。
(開票作業) 第 4 条 開票作業は委員長および委員の立会のもと行わなければならない。	(新規) (新規)
(当選者の決定) 第 5 条 会長・運営委員選挙の当選者は、役員の任期が満了する年度の総会の 1 ヶ月前までに決定しなければならない。 第 6 条 会長選挙において、会長は有効最多票を得た者を当選者とする。最多票で同得票数の者が複数のときは、年少者を当選者とする。 2 運営委員選挙において、運営委員は有効票順に上位から当選者とし、末位に同得票数の者がいるときは年少者を当選者とする。 3 同一人が会長と全国選出運営委員および/または地区選出運営委員に当選した場合、その者は会長となり、全国選出運営委員および/または地区選出運営委員にはそれぞれ次点者を繰り上げる。	(新規) (新規) 6) 会長選挙において、会長は有効最多票を得た者を当選者とする。最多票で同得票数の者が複数のときは、年少者を当選者とする。 7) 運営委員選挙において、運営委員は有効票順に上位から当選者とし、末位に同得票数の者がいるときは年少者を当選者とする。 8) 同一人が会長と全国選出運営委員および/または地区選出運営委員に当選した場合、その者は会長となり、全国選出運営委員および/または地区選出運営委員にはそれぞれ次点者を繰り上げる。

新		旧	
4	同一人が全国選出運営委員と地区選出運営委員の両方に当選した場合、その者は全国選出運営委員となり、地区選出運営委員にはその地区の次点者を順次繰り上げる。	9)	同一人が全国選出運営委員と地区選出運営委員の両方に当選した場合、その者は全国選出運営委員となり、地区選出運営委員にはその地区の次点者を順次繰り上げる。
5	当選者は総会および植生学会誌の学会記事にて会員に公表する。	(新規)	
	(運営委員会規則に転載)	第4条	地区選出運営委員が他地区に移動したときは運営委員の任を解く。
	(運営委員会規則に転載)	第5条	運営委員に欠員が生じた場合は、次点者を順次繰り上げて当選者とし、その任期は前任者の残任期間とする。
	(守秘義務)	(新規)	
第7条	選挙管理委員会構成員は、個人情報の管理を徹底しなければならない。	(新規)	
	(守秘義務)	(新規)	
第8条	選挙管理委員会構成員は、業務上知り得た情報等を他に漏らしてはならない。	(新規)	
	(雑則)	(新規)	
第9条	本規則の変更は運営委員会の決議による。	第6条	会長および運営委員選出の手続きに関するその他の事項は、選挙管理委員会の判断により措置するものとする。
第10条	会長および運営委員選出の手続きに関するその他の事項は、選挙管理委員会の判断により措置するものとする。	(新規)	
	附則	(新規)	
1.	本規則は2015年10月10日から施行する。	(新規)	

### VIII. 学会賞

2015年度の学会各賞の受賞者は以下の通り。授与式は2015年10月11日に高知大学朝倉キャンパスで行われ、石川会長より各受賞者に表彰状と記念品が贈呈された。

学会賞	崎尾 均 (新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター)
奨励賞	鈴木康平 (名古屋大学)
特別賞	平吹喜彦 (東北学院大学教養学部地域構想学科) 河野耕三 (綾町照葉樹林文化推進専門監嘱託)
論文賞	蛭間 啓 (長野県環境保全研究所)・福嶋 司 (放送大学) 東日本のブナ林に出現する広葉草本種の生育場所は少雪地と多雪地でなぜ異なるのか (植生学会誌第31巻2号掲載179-192頁2014年12月発行)
研究発表賞	
口頭発表賞	大瀨香菜子・中村幸人 (東京農業大学・森林総合科学科) 伊豆天城山夏緑広葉樹林におけるヒメシヤラとヒコサンヒメシヤラの同所的共存機構
ポスター発表賞	佐々木菜子・星野義延 (東京農工大学大学院) コナラ二次林における異なる植生タイプ間の部分的菌従属栄養植物の繁殖特性の比較

### IX. 植生学会第20回大会報告

植生学会第20回大会 (大会会長: 石川慎吾, 大会実行委員

長: 比嘉基紀) が、2015年10月10日～13日にかけて下記日程で高知大学朝倉キャンパスおよび石鎚山にて開催された。一般講演では口頭33題、ポスター36題の発表が行われた。参加者は予約申し込み者125名、当日参加者20名の計152名であった

10月10日	各種専門委員会・運営委員会
10月11日	一般講演 (口頭発表, ポスター発表), 学会賞各賞授与式, 総会, 学会賞受賞者講演, 現地研究会説明会, 懇親会
10月12日～13日	現地研究会 (石鎚山: シラビソ林, ミ・ツガ林, ササ草原)

一般講演は以下の通りであった。

<口頭発表>

- A01 ニュージーランド, クライストチャーチ近郊の河川にみられるハリエニシダ島状群落の形成過程. 小川滋之・水野大樹・百原 新・加藤 顕 (千葉大学大学院園芸学研究所)
- A02 ニュージーランド, クライストチャーチ近郊の河川に形成された島状植物群落の構造と種組成. 水野大樹・小川滋之・百原 新・加藤 顕 (千葉大学)
- A03 山地河畔林におけるヤナギ類の更新機構 - 実生更新か萌芽更新か? -. 崎尾 均 (新潟大農学部)・松澤可奈子 (新潟県上越地域振興局)・川西基博 (鹿児島大教育学系)・中野陽介 (新潟大・院・自然研, 只見町ブナセンター)

- A04 遺傳解析を用いたヤナギ類の河道掘削箇所への侵入・定着機構について. 池田茂・對馬育夫・片桐浩司・大石哲也・萱場祐一 (国立研究開発法人土木研究所)
- A05 千曲川における氾濫原植生の分布と種組成の変遷. 片桐浩司・傳田正利・萱場祐一 (国立研究開発法人土木研究所河川生態チーム)
- A06 アベマキの自然生育立地に関する研究 (予報). 野寄玲児・澁谷理沙・二葉清香・前田有香子 (神戸女学院大学)
- A07 武蔵野台地上のコナラ二次林の林床でアズマネザサが繁茂するまでのプロセス. 八木正徳 (東京農工大学農学部)・星野義延・吉川正人 (東京農工大学・大学院・農)
- A08 土中に 10 年間埋めた樹木種子の生存率. 酒井 敦 (森林総研四国)
- A09 愛知県の泥炭湿地, 長ノ山湿原の植生と 40 年間の変化. 中西 正 (愛知県環境審議会専門調査員)・川角法子 (愛知県)
- A10 閉山後 40 年を経た北海道東部の炭鉱集落の植生. 加藤ゆき恵 (釧路市立博物館)・持田 誠 (浦幌町立博物館)・石川孝織 (釧路市立博物館)
- A11 再度山永久植生保存区における 40 年間の植生の変化. 橋本佳延 (兵庫県立人と自然の博物館)・武田義明 (神戸大学)
- A12 三宅島 2000 年噴火跡地における遷移初期植物が生態系の初期発達に与える効果. 上條隆志 (筑波大学・生命環境系)・門倉由季・守 容平 (筑波大学・生命環境科学研究科)・田村憲司・廣田 充・山路恵子 (筑波大学・生命環境系)
- A13 伊豆諸島神津島の植生類型について. 村上雄秀 (国際生態学センター)・西川博章 (株式会社ラーゴ)・勝山輝男 (神奈川県立生命の星・地球博物館)
- A14 島根県隠岐諸島の植生 - 環境省第 6・7 回植生図を用いた解析 -. 森定 伸 ((株) ウエスコ)
- A15 衛星リモートセンシングデータを用いた広域スケール植生図化手法の開発. 原慶太郎・原田一平・富田瑞樹・朴鐘杰・長谷川大輔・浅沼市男 (東京情報大学), 原 正利 (千葉県立中央博物館), 平吹喜彦 (東北学院大学), 藤原道郎 (兵庫県立大学大学院)
- A16 中国・四国地方の森林植生 - 環境省第 6・7 回植生図を用いた縦断解析 -. 小川みどり (所属なし)・森定 伸 ((株) ウエスコ)・波田善夫 (岡山理科大学)
- B01 群馬県内におけるニホンジカによる植生攪乱状況について. 鈴木伸一 (東京農業大学・短期大学部)・片野光一 (群馬県自然環境調査研究会)・吉井広始 (群馬県立みやま養護学校)・大森威宏 (群馬県立自然史博物館)
- B02 ニホンジカの不嗜好性樹種の樹木剥皮と立地環境. 川瀬彩 (横浜国立大学大学院・環境情報学府)・持田幸良 (横浜国立大学環境情報研究院)
- B03 アジアのブナ林とナラ林の群落システム. 藤原一繪・原田敦子 (横浜市大・院・生命ナノシステム)
- B04 本州中部地域に成立する内陸性気候下の森林植生. 設楽拓人・中村幸人 (東農大・森林生態学研究室)
- B05 モンゴル国テレルジ国立公園における草原に隣接するシベリアカラマツ林の動態. Li HAO (筑波大・生命環境)・川田清和 (筑波大・生命環境)・大橋春香 (森林総研)・上條隆志 (筑波大・生命環境)・Undarmaa Jamsran (モンゴル国立農業大)
- B06 伊豆天城山夏緑広葉樹林におけるヒメシヤラとヒコサンヒメシヤラの同所的共存機構. 大淵香菜子・中村幸人 (東京農業大学・森林総合科学科)
- B07 利尻岳における森林植生の垂直分布と地形との対応. 吉田圭一郎 (横浜国立大学・教育人間科学部)
- B08 標高に沿ったシダ植物の分類学的・系統的・機能的多様性. 田中崇行 (信州大学総合工学系研究科)・佐藤利幸 (信州大学・理学部)
- B09 春日山照葉樹林におけるブナ科樹木の分布と構造. 前迫ゆり (大阪産大・院・人間環境)・森川顕次・能瀬俊一・山田佳実・濱田 凌 (大産大)・森田哲朗 ((株) 地域環境計画)
- B10 石鎚山のシラベ林の林分構造と動態. 杉田久志・酒井敦 (森林総研四国)・比嘉基紀・越智水星 (高知大・理)・清水長正 (エルデ)
- B11 群馬県みなかみ地域におけるミズナラ林伐採後の草原性植物の動態. 増井太樹・津田 智 (岐阜大学流域圏環境科学研究センター)・森林塾青水
- B12 畦畔草地における, 土地利用の変化が引き起こす植物多様性の変化 - 種組成は均質化しているのか -. 内田 圭 (神戸大・院・人間発達)・小柳知代 (東京学芸大学・環境教育研究センター)・松村俊和 (甲南女子大学・人間科学部)・小山明日香 (森林総合研究所)
- B13 都井岬草原における外来牧草の侵略性に及ぼす匍匐性の在来種の影響. 西脇亜也 (宮崎大学農学部フィールドセンター)
- B14 都市域において在来植物相を維持するために重要な植物群落は何か? 吉川正人 (東京農工大・院・農)
- B15 自然教育園におけるシュロ個体群の個体群構造の経年変化とその特徴. 亀井裕幸 (所属なし)
- B16 高知市種崎海岸における海浜の樹林化. 楠瀬雄三 (エコシステムリサーチ)・石川愼吾 (高知大学・理学部)
- B17 仙台湾南部海岸の復興工事エリアにおける在来砂浜植物の生育状況と生態緑化活動. 平吹喜彦 (東北学院大)・岡 浩平 (広島工大)・菅野 洋 (東北緑化(株))・南蒲生 / 砂浜海岸エコトーンモニタリングネットワーク・北の里浜花のかけはしネットワーク・緑を守り育てる宮城県連絡会議
- <ポスター発表>
- P01 浴用植物データベースの作成と活用. 香川秋沙・星野義延 (東京農工大学大学院)
- P02 路傍雑草群落の集合パターンと市街化の関係. 根本利起哉・西尾孝佳 (宇都宮大学・雑草と里山の科学教育研究センター)
- P03 愛媛県南予地方の田植え前の田面に成立した植物群落の特徴. 徳岡良則 (農環研)・橋越清一 (南宇和高校)
- P04 休耕地植生の季節変動と除草時期の関係. 齊藤佳緒里・根本利起哉・嶋原佳奈・森 孝弘・西尾孝佳 (宇都宮大学・雑草と里山の科学教育研究センター)
- P05 高知県中部に残存する小規模草地の植生と植物相. 高橋瑛乃 (高知大・院・理)・比嘉基紀・石川愼吾 (高知大・



- 理)
- P06 奄美大島における河畔植生の種組成と種多様性. 川西基博 (鹿児島大学・教育)
- P07 茨城県菅生沼における湿地性の絶滅危惧植物種と地下水位の関係. 西平貴一 (筑波大学大学院・生命環境科学研究科)・澤田みつ子 (株式会社アストジェイ)・鈴木康平 (名古屋大学)・小幡和男 (ミュージアムパーク茨城県自然博物館)・上條隆志 (筑波大学生命環境学系)
- P08 ハリエンジュ幼木の巻き枯らし試験. 星野義延・深町篤子 (東京農工大学大学院)
- P09 多摩川中流域における樹林の分布と流路変遷との関係. 和田美貴代
- P10 暖温帯山地河畔林における林縁および河川攪乱が落葉広葉樹の成立に与える影響. 篠原千佳・伊藤 哲・平田令子・光田 靖・清水 収 (宮崎大学農学部)
- P11 狭山丘陵の東京都貯水池林における二次林植生の利用停止後約 40 年間の遷移. 李 昇京・吉川正人・星野義延 (東京農工大学・院・農)
- P12 保全を目的とした管理が都市近郊のコナラ二次林に与える影響. 田中伸悟・星野義延 (東京農工大学大学院)
- P13 鳥取県千代川上流部における人工林の健全性評価. 永松大 (鳥取大学・地域学部)・藤田 充 (賀露おやじの会)
- P14 南九州の老齢スギ人工林の林分構造一種組成とサイズ分布一. 川口千尋・伊藤 哲・平田令子 (宮崎大学農学部)・山川博美 (森林総合研究所)
- P15 温帯性木本ツルの樹冠形成と下層植生の関係. 西尾孝佳・森 孝弘 (宇都宮大学・雑草と里山の科学教育研究センター)
- P16 50 年生程度のコナラにおける萌芽の制限要因. 松本 薫 (明治大学大学院・農学研究科)・倉本 宣 (明治大学・農学部)
- P17 コナラ二次林における異なる植生タイプ間の部分的菌従属栄養植物の繁殖特性の比較. 佐々木菜子・星野義延 (東京農工大学大学院)
- P18 動物による土壌攪乱が湧水湿地の植生に及ぼす影響. 西村 萌・肥後陸輝 (岐阜大・地域)
- P19 ニホンジカ採食植物の不嗜好性に関する植栽試験. 辻秀之・赤松弘治 ((株)里と水辺研究所)・岩崎 良・織田一也 (サントリーホールディングス(株))・服部 保 (兵庫県立大)
- P20 森林群集の更新におよぼすニホンジカの影響. 川嶋淳史・永松 大 (鳥取大学・地域学部)
- P21 渡良瀬川上流域におけるシカ柵設置後の初期の植生変化. 深町篤子・星野義延・吉田智弘・渡辺直明 (東京農工大学)
- P22 高知県中土佐町の植生とニホンザルの関係. 寺山佳奈 (高知大学大学院総合人間自然科学研究科)・金城芳典 (四国自然史科学研究センター)・加藤元海 (高知大学黒潮圏)
- P23 津波浸水域における残存林の履歴と木本種組成. 富田瑞樹 (東京情報大学)・菅野 洋 (東北緑化環境保全株式会社)・平吹喜彦 (東北学院大学)・原慶太郎 (東京情報大学)
- P24 淡路島吹上浜における重機による植生破壊後 4 年間の植生モニタリング. 澤田佳宏 (兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科/兵庫県立淡路景観園芸学校)
- P25 岩手県野田村十府ヶ浦における震災復旧工事に伴う海浜性植物の保全活動. 島田直明・船場優希 (岩手県大・総合政策)
- P26 京都府丹後砂丘における絶滅危惧種トウテイランの生育立地特性. 鐵 慎太郎 (兵庫県立大学環境人間学研究科)・黒田有寿茂 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所)・石田弘明 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所)
- P27 三陸海岸における礫浜に隣接する斜面下部の津波後の植生. 中軽米聖花・竹原明秀 (岩手大学人文社会科学部)・大上幹彦
- P28 鳥取砂丘の植物相と分布の特徴. 岩里実季 (鳥取大学・院・地域)・永松 大 (鳥取大学・地域)
- P29 内モンゴル右旗における *Stipa krylovii* と *Allium polyrhizum* の個体レベルでの炭素吸収特性. 胡 曉星 (筑波大学・生命環境科学研究科)・鳥 云娜 (大連民族大学)・廣田充 (筑波大学・生命環境系)・西村貴皓・李敏 (筑波大学・生命環境科学研究科)・上條隆志 (筑波大学・生命環境系)
- P30 旧熱帯区赤道直下における山地林の組成と温度条件. 目黒伸一 (国際生態学センター)
- P31 Comparison of Forest Structure Between Natural and Secondary Forests in Tropical Seasonal Forest in Mt. Popa Myanmar. Hung khui Shein・Takashi Kamijo・Kenji Tamura (筑波大・生命環境)・Aung Myat San (Ye Zin University)・Tin Maung Oo (筑波大・生命環境)
- P32 霧島山系の高千穂河原周辺における新燃岳噴火後 5 年間の林分構造の変化. 山川博美・安部哲人・野宮治人・重永英年・金谷整一 (森林総研九州)・荒木眞岳 (森林総研)・香山雅純 (国際農林水産業研究センター)
- P33 口永良部島に分布する照葉樹林の種組成および種多様性. 石田弘明 (兵庫県立大)・矢倉資喜 (公益財団法人ひょうご環境創造協会)・黒田有寿茂 (兵庫県立大)・岩切康二 (岩切環境技研株式会社)
- P34 慶良間諸島現存植生. 久保田七海・染矢 貴・成ヶ沢久仁子 (アジア航測株式会社)
- P35 広域植生図における詳細植生図の情報. 藤原道郎 (兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科/淡路景観園芸学校)・伊藤休一 (緑生研究所)・原田一平・原慶太郎・富田瑞樹 (東京情報大学)
- P36 山岳地既存調査地点データベースの整理. 成ヶ沢久仁子・原田敦子 (アジア航測株式会社)・馬淵 亮・前川恵美子 (環境省自然環境局生物多様性センター)
- X. 会員移動 (2015 年 5 月から 2015 年 10 月まで)**
1. 新入会員 (\*学生)
- 國弘 則夫  
岸上 拓夢\* 近畿大学農学部環境管理学科生態工学研究室  
小川みどり  
寺山 佳奈\* 高知大学  
下山 祐樹 宮城植物の会  
池田 茂 国立研究開発法人土木研究所  
森山 舞奈\* 岡山理科大学生物地球学部生物地球学科

- 田尾 恭子  
松本 薫\* 明治大学大学院  
川嶋 淳史\* 鳥取大学地域学部植物生態学研究室  
岩里 実季\* 鳥取大学大学院地域学研究科  
田中 伸悟\* 東京農工大学植生管理学研究室  
中軽米聖花\* 岩手大学人文社会科学部  
LI HAO\* 筑波大学生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻  
Hung Khui Shein\* 筑波大学生命環境科学研究科環境科学専攻  
佐々木菜子\* 東京農工大学大学院農学府修士課程自然環境保全学専攻 植生管理学研究室  
川瀬 彩\* 横浜国立大学大学院環境情報学府 環境生命学専攻地球環境コース  
香川 秋沙\* 東京農工大学農学府自然環境保全学専攻植生管理学研究室
- 理学研究室  
川口 千尋\* 宮崎大学農学部  
酒井 敦 森林総合研究所四国支所  
根本利起哉\* 宇都宮大学雑草と里山の科学教育研究センター  
齊藤佳緒里\* 宇都宮大学雑草と里山の科学教育研究センター  
高橋 瑛乃\* 高知大学理学部植物生態学研究室  
上赤菜都美\* 岡山理科大学
2. 退会  
清水 寧久, 新美恵理子, 鈴木菜々子, 南野 拓也,  
沖 宗一郎, 前田 海門, 荒金 正憲, 瀧川 幸伸,  
森 優美, 大山 弘子, 木村 絵里
3. 宛先不明  
奥田 賢, 小林 悟志, 仲山真希子, 羽二生亜衣